

教育委員会協議会議題

平成19年10月30日

1 報告事項

(1) 平成19年度上半期寄付採納状況について (資料1 教育政策課)

(2) 市議会9月定例会の概要について (資料2 教育政策課)

(3) 小田原文学館3階の開放について (資料3 図書館)

資料 1

平成19年度上半期寄付採納状況について

物品

	寄 付 者	寄 付 物 品	見 積 額	使 途 先
1	匿名	ノートパソコン 1台	154,800 円	城山中学校
2	成田 530-1 豊川小学校 PTA 会長 大川 晋作	リソグラフ(中古) 1台	52,500 円	豊川小学校
3	川崎市高津区坂戸 3-2-1 KSP614 (財)神奈川科学技術ア カデミー 理事長 藤嶋 昭	図書「アサガオはいつ、花を開くのか? 読んで納得。『お茶の間サイエンス』 38 冊	26,334 円	市立小・中学校、 教育研究所
4	小田原市栄町 1-2-11 小田原遊戯場組合 組合長 原田 昭治郎	非行防止啓発用ビデオテープ 3 本	200,000 円	青少年相談 センター
5	小田原市中町 3-13-22 小田原市古紙リサイクル 事業組合 理事長 荻原 右一	リーフレット「小田原市紙・布類分別収 集『その他紙』のリサイクル」 17,500 部	420,000 円	市立小中学校

市議会 9 月定例会の概要について（教育委員会関係）

会 期 平成 19 年 9 月 3 日から 10 月 10 日まで
 （厚生文教常任委員会開催日 9 月 10 日）
 （決算特別委員会設置期間 9 月 20 日～10 月 10 日）

教育委員会関係概要

（予 算）

案 件	原案結果	備 考
9 月補正予算	原案可決	概要別紙のとおり

（決 算）

案 件	原案結果	備 考
平成 1 8 年度一般会計歳入歳出決算	認 定	

（そ の 他）

案 件	原案結果	備 考
教育委員会委員の任命について	原案同意	桑原妙子委員（再任）
工事請負契約の締結について（史跡小田原城跡馬出門榭形 門・土塀復元整備工事）	原案可決	

（一般質問）

別紙一覧のとおり

平成19年9月補正予算要求概要（追加分含む）

（歳入）

（単位：千円）

科目	要求額	主な内容
(項)市債 (目)教育債	896,000	<u>小学校債</u> 46,000 義務教育施設整備事業債 <u>社会教育債</u> 史跡整備事業債 850,000
合計	896,000	

（歳出）

（単位：千円）

科目	要求額	主な内容	財源内訳			
			国県支出金	地方債	その他	一般財源
(項)小学校費 (目)学校管理費	52,821	<u>学校管理経費</u> 役務費 200 公有財産購入費 51,221 * 芦子小学校用地購入費関係 <u>工事請負費</u> 1,400 * 片浦小学校屋内運動場外壁改修 工事請負費		46,000		6,821
(項)社会教育費 (目)文化財保護費	854,757	<u>文化財保護経費</u> 委託料 2,000 * 長興山枝垂桜樹勢回復委託料 <u>史跡小田原城跡整備経費</u> 公有財産購入費 852,757 * 三の丸外郭新堀土塁用地購入 費（アジアセンター跡地）		850,000		4,757
(項)保健体育費 (目)体育施設費	63,800	<u>スポーツ広場経費</u> 備品購入費 1,800 * スポーツトラクター(1台)購 入費 <u>小田原テニスガーデン運営経費</u> <u>工事請負費</u> 24,000 * コート改修等工事請負費 <u>スポーツ広場経費</u> <u>工事請負費</u> 38,000 * 酒匂川スポーツ広場災害復旧 工事請負費	7,000			56,800
合計	971,378		7,000	896,000		68,378

平成19年9月議会

一般質問（教育委員会関係質問事項）

質問順	議員名	質問事項	所管課	NO	頁
1	武松	2 小中学校における校内LANの整備について (1) 他市の先進事例について (2) 今後の計画作成について	教育研究所	1 ～ 4	1 ・ 2
5	俵	1 行政資料等のデジタル化について (1) 保存文書のデジタル化について (2) 視聴覚ライブラリーについて (3) 地域資料の収集・保存について	図書館	5 ～ 7	2 ・ 3
10	田中	2 城山庭球場について (1) 将来的に閉場するとあるが、現行の庭球場として残すよう再検討をすべきではないか	スポーツ課	8	3
13	横田	1 市の文化施設に関する諸問題について (1) 郷土文化館の今後に関して (2) 現状における問題点	生涯学習政策課	9 ～ 14	3 ・ 4
15	奥山	1 公共施設のトイレの改善等について (1) 小中学校等のトイレの現状と今後の対策について	教育政策課	15 ・ 16	5
		2 学校敷地内の駐車料金の活用について (1) 財源の使い道について	学校教育課 教育政策課		
16	堀村	3 本市における子育て支援策の拡充について (1) 子育て相談窓口の充実 ア 連絡先カードの作成	学校教育課	17 ～ 19	6
		イ 24時間対応のホットラインの設置	教育研究所		
		(2) 発達障害に関する臨床心理相談の実施	学校教育課 (子育て支援課)		
17	小松	1 食の安全について (1) 学校給食等について (2) 地産地消等について	学校保健課	20 ～ 23	7 ・ 8
18	谷神	4 (1) パークゴルフ場の新設を	スポーツ課	24	8

※ 一般質問

議員	NO	答弁	質問要旨	答弁要旨
武松	1	教育長	市立小中学校の職員室の LAN、及び、校内 LAN 整備状況を伺う。	職員室内の LAN については、各校の予算で、プリンターやデータの共有を目的に整備している学校が、小学校 8 校、中学校 2 校あるが、その他は整備されていないのが現況である。次に、校内 LAN の整備状況であるが、本市では、平成 12・13 年度の小・中学校教育ネットワーク整備事業において、各校のパソコン教室と職員室、並びに、いくつかの特別教室を LAN 回線で結んでいる。中でも、片浦小学校においては、平成 14 年度の「特色ある教育課程推進事業」により、全ての教室でインターネット接続ができるよう LAN 回線を整備している。しかしながら、その他の学校では、全ての普通教室を LAN 回線で結ぶ校内 LAN は整備できていないのが現況である。
	2	教育長	教科書の映像テキスト等の利用状況について伺う。	市内の小中学校では、例えば、理科の天体の動きをパソコン上で再現して理解させる教材や、社会科の映像資料を、プロジェクターにより拡大表示して活用する等、20 校から実践例が報告されている。情報化が進んでいる現在、学習効果を高めることをねらい、教科書の本文や挿絵等をパソコンとプロジェクターを通じて拡大表示できる教材が普及しつつある。また、教科書の内容に関連したデジタル教材も開発され、無償で利用できるものもあるので活用を図っていきたい。
	3	教育長	ICT 導入による、子供達を評価する事例についての所見を伺う。	学校現場では、目標に準拠した評価、いわゆる絶対評価が導入され、子供達の学びに対する評価の精度を、より一層高めることが求められている。それには、一人の児童・生徒を、多くの教員の目で見取って評価し、賞賛を与えたり、励ましたり、次の指導を工夫したりする必要がある。そのために ICT を活用し、一人の児童・生徒の情報を多くの教員が共有することは、とりわけ教科担任制である中学校では、指導上高い効果が期待できると共に、教育相談の効果を高めるためにも有効であるものと考えている。いづれにしても、本市としては、順次、学校の ICT 環境のハード面を整備すると共に、ご指摘の先進事例の手法等のソフト面についても調査研究をしてまいりたいと考えている。

4	教育長	<p>教室や職員室へのICT導入による授業や評価の充実や、業務の省力化などについて、計画していくのがか。</p> <p>職員の業務に具体的な課題があるのか。</p>	<p>本市では、平成12・13年度の小・中学校教育ネットワーク整備事業において、小中学校合わせて約1300台のパソコンを整備し、ITを活用した授業ができるようにした。しかしながら、設置後6・7年以上経過したことから、学校教育情報システム研究会を立ち上げ、今後の教育ネットワーク整備について研究し、具体的な整備計画を立案しているところである。</p> <p>その中で、パソコン教室を中心とした、今ある機器の入れ替えが急務であり、今年度は、教育委員会内のサーバの入れ替えを進めているところである。加えて、各学校の教育用パソコン1300台の入れ替えについても急がねばならず、通信速度の高速化も含めて来年度以降には対応する計画を立てている。また、教科書の映像テキスト等の、授業におけるICT活用の推進に向けた業務用パソコンやプロジェクターの配備、あるいは普通教室へのLAN整備、評価作業等の業務の効率化・省力化をねらった職員室内のLAN整備等、ご指摘の内容も含めて、順次検討を進めてまいりたいと考えているので、ご理解いただきたい。</p>
5	市長	<p>小田原市史編纂事業の経過について、資料の劣化や公開のデジタル化を進めるべきではないか。</p>	<p>市史収集資料等の貴重資料は、現在、市立図書館等で保存・公開している。ご指摘のとおり、これらの中には、劣化の進んでいるものがあり、ことに酸性紙を使用している明治時代以降の資料においては、対応を急ぐべきものもある。そのため、本年度から、脱酸処理・破損修理など、今後の確実な保存に必要な作業に着手しているところである。その一方で、これらを広く一般に公開してゆくことも、重要な課題であり、デジタル化は、そのための有効な方法の一つと考えている。現在、所管課を中心に、デジタル化を含め、貴重資料の保存と公開について研究をしているので、ご理解をいただきたい。</p>
6	市長	<p>図書館で所蔵している貴重資料の現状、劣化対策及びデジタル化への検討をお願いしたい。</p>	<p>視聴覚ライブラリーで所有している音声・映像資料は、専用のコーナーに磁気やほこりに注意し、整理・保管している。ご指摘のように、古くなったり使用したりすることによる経年的な劣化を防ぐ手立てはないのが現状であるが、オープンリール方式の録音テープをCDにするなど、再生方式の変換の必要性があるものから、デジタル化していくことが、最も合理的であると考えている。</p>

俵

	7	市長	<p>地域に残されている古い映像や録音資料は、貴重なものが多い。これをデジタル化することで公開できないか。</p> <p>市内に所在する各種の資料については、これまでも市史編さん事業等において、調査・収集を進めてきた。ただ、その際には、古文書などの紙に書かれた資料を主な対象とし、ご指摘の映像・録音資料については、比較的新しい時代の資料であることもあって、必ずしも積極的な収集を進めてこなかった経緯がある。映像フィルムや録音テープ等は、時代を写し過去を伝える資料として、文字資料より優れた面もあると考えている。したがって、フィルム、テープの劣化に伴う技術的な問題、著作権や個人情報保護への対応などの問題も予想されるが、活用していくための方策について、今後、研究を進めていきたいと考えている。</p>
田中	8	市長	<p>城山庭球場については、昭和30年に開催された第10回国民体育大会の軟式庭球の会場として整備したものである。一方、平成10年に開催された第53回かながわ国体においては、ソフトテニスの会場として、城山庭球場に替わる施設となる小田原テニスガーデンを建設している。その際、城山庭球場はこの小田原テニスガーデンの完成に伴い、閉場するという関係者の了解も得ており、建設後50年以上経過し老朽化も進んでいることから、庭球場として残すことは選択肢として考えておりませんので、ご理解いただきたい。</p>
	9	市長	<p>郷土文化館の来館者のうち、市民の割合はどうか。また、リピートはどれくらいか。</p> <p>来館者の内訳については、常時データを整理しているわけではないが、平成16年度に常設展示の展示替えの際に行った調査では、市内26%、市外74%であった。また、再来館回数は平均で1.52回との結果が得られている。この調査において、市外からの来館者が多いのは、郷土文化館が観光施設である小田原城址公園内に立地しているためと考えている。</p>
横田	10	市長	<p>ここ数年で千支展以外に郷土文化館で開かれた企画展の回数が多い。ここ数年で千支展以外に郷土文化館で開かれた企画展の回数が多い。ここ数年で千支展以外に郷土文化館で開かれた企画展の回数が多い。</p> <p>平成14年度以降、郷土文化館で実施した企画展は5件である。市内の発掘調査で出土した考古資料を取り扱った企画展「掘り出された小田原の歴史」を2回（平成14・16年度）、写真パネルと標本で構成した「相模湾の海藻展」（平成16年度）、市民団体と連携して雛人形を展示した「ひい雛なの美」（平成17年度）、郷土文化館の50年の歩みについて関連資料を用いて回顧した「郷土文化館の50年」（平成17年度）の5件であり、おおむね好評を博した。</p>

11	市長	<p>中井町にある個人博物館「江戸民具街道」と連携して企画展を実施したかどうか。</p>	<p>他の博物館、美術館との連携という意味では、小田原・箱根を中心とした県西部地域のミュージアム連絡会に参画し、ミュージアムリレーを行っており、本年、10周年を迎えたところである。今後も引き続き、他のミュージアムとも連携していくが、ご提案の内容も含めて、郷土文化館の魅力を高めていくため、展示内容に工夫を加えてまいりたい。</p>
12	市長	<p>これまで郷土文化館の移転等に関わる組織に発足したことがあるのか。またその後の進捗状況はどうか。</p>	<p>郷土文化館は国指定史跡内にあり、老朽化もすすんでいることから、史跡外への移転が位置付けられている施設である。そこで、有識者による委員会を設置し、平成6年に「小田原市博物館基本構想」を取りまとめたが、社会経済情勢の激変により具体化に至っていない。このため基本構想の見直しも含め、「ビジョン21おだわら」の基本計画において郷土文化館整備事業と位置付け、財政状況等を踏まえ、教育委員会内部で継続して調査・研究を進めているところである。</p>
13	市長	<p>郷土文化館の移転等を機に、松永記念館の位置付けを再考する考えはないか。</p>	<p>松永記念館は、電力王の異名を持ち、近代数寄茶人としても大変よく知られた松永安左エ門が昭和34年に設立した施設を譲り受け、昭和55年に郷土文化館分館として開館したものである。現在は市の美術館的な機能も持ち合わせており、また地域ぐるみで「板橋 秋の交流会」を開催するなど、郷土文化館とは異なる色合いを見せている施設である。松永記念館の将来的な位置付けについては、郷土文化の発信という性格上、郷土文化館と一体で管理・活用を行うことが妥当と考えているが、施設の長所を生かして、その魅力を高めていくことに意を用いてまいりたい。</p>
14	市長	<p>郷土文化館の移転等に関し、市長の総合的な考えを問う。</p>	<p>これまでお答えしてきたように、郷土文化館の移転については土地の手当てや施設の建設費等なかなか解決しがたいものがある。本市の博物館を考える場合には、市内に県立自然系博物館や尊徳記念館、また民間の報徳博物館、街かど博物館、聴濤庵などがあり、また箱根周辺には官民相まって優れた博物館、美術館などが立地しているという周辺環境も考慮しなければならない。</p> <p>小田原城も言い方を変えれば、歴史博物館ということも言え、私たちの郷土・おだわらの豊かな自然とそれに育まれた歴史や文化は他に類を見ないものである。そうした素晴らしさを市民の皆様理解してほしいし、内外から訪れる数多くの観光客にも体感していただきたい、という強い思いもあるので、本市にふさわしい博物館のあり方について結論を得るまで、もう少しお時間を頂戴したい。</p>

	15	市 長	<p>学校トイレの洋式化率及びシャワートイレの設置状況はどうか。また、今後の学校トイレの整備について、どう考えているか。</p> <p>ライフスタイルの変化などから、学校におけるトイレの洋式化の必要性については認識しているところである。洋式トイレについては、小・中学校への設置を順次進めており、現時点での洋式トイレの占める割合は、小学校で21.5%、中学校で17.3%となっている。また、シャワートイレは、体の不自由な児童・生徒の入学等に合わせて設置を行っている。現時点では、小学校8校（9基）、中学校4校（8基）に設置している。</p> <p>シャワートイレについては、学校の要望や、家庭への普及率なども考慮しながら将来的に全小・中学校への設置を目標としたい。今後も、学校等からの施設改善や整備の要望を踏まえた上、国庫補助の活用を図りながら、便器の洋式化、シャワートイレの設置を含めたトイレ整備を計画的・効率的に推進してまいりたい。</p>
奥山	16	教育 長	<p>駐車料金を財源として三つの事業を実施しているが、どのような目的と効果を期待しているのか。</p> <p>学校敷地内の駐車料金については、平成19年度は、「夢育（ゆめいく）学校づくり推進事業」「花と緑いっぱい幼稚園・学校づくり推進事業」「中学校管理諸室冷暖房設備整備事業」の3事業に充当している。「夢育学校づくり推進事業」は、各学校が、子どもや地域の実態等を踏まえ、創意工夫を生かし、子どもたちのための夢ある学校づくりを目指すことで、活力あふれた特色ある学校づくりが推進され、学校教育の充実が図られるといった効果を期待している。具体例には、校地内に、野外体験の場としての水田の建設やビオトープ・子ども水族館の整備などを計画している学校がある。</p> <p>「花と緑いっぱいの幼稚園・学校づくり推進事業」は、幼稚園・小学校・中学校において、花と緑いっぱいの幼稚園・学校づくりを目指すことで、園児・児童生徒の命を大切にする心や思いやりの心、美しいものや自然に感動する心を育むとともに、園児・児童生徒の生活環境の充実が図られるといった効果を期待している。</p> <p>「中学校管理諸室冷暖房設備整備事業」は、校長会等からの要望に基づき、生徒指導や部活動の監督等により夏期休業中に出勤する機会が多い中学校の教職員の執務環境改善のため、管理諸室等に空調設備を整備したものである。</p> <p>この学校敷地内の駐車料金については、その徴収に至った経緯もあることから、可能な限り学校教育に要する事業に還元してまいりたい。</p>

堀村	17	教育長	<p>相談内容に応じて、保護者用と小・中学生用の2種類のカードに相談窓口の連絡先や受付時間を印刷されたカードの作成が必要か。</p>	<p>本市では子育て支援に関することやいじめなどの子どもや保護者が抱えている悩みに対して、複数の機関を設置し、相談活動を行っている。それぞれの相談窓口の連絡先については、教育かわら版やリーフレットなどを通して、広く周知に努めている。また、昨年11月に教育長の緊急アピールとして、メッセージとともに相談窓口の連絡先を一覧にしたものを配布した。</p> <p>今後は、相談窓口の連絡先を広く正確に伝えるために、関係各課と連携をとりながら相談内容に応じた連絡先や受付時間などが印刷されたカードを保護者用と小・中学生用の2種類を作成し、各学校を通じて配布することにより、周知徹底を図りたい。</p>
	18	教育長	<p>子育てに関する相談に迅速に対応するために、24時間対応の相談窓口の設置が必要と思うが、いかがか。</p>	<p>子育て中の不安や疑問は、昼夜を問わずに起こるものであり、そのための受入体制の必要性については理解できる場所である。現在、教育研究所では、他課や他機関の相談窓口とも連携して、相談活動を進めているが、夜間や閉庁日におけるいじめ等の相談については、留守番電話機能を設定し、後日教育相談員が対応をしている。</p> <p>県においては、ご指摘のとおり、各種電話相談窓口を24時間体制で開設しているが、受付時間外に本市の窓口にかけられた電話相談を、県の相談機関に自動的に転送するという点については、今後の研究課題とさせていただきたい。また、教育研究所における「いじめなんでも相談室」の24時間体制につきましても、時間外の利用状況の推移を見ながら、より充実した対応を検討してまいりたいと考えているので、ご理解いただきたい。</p>
	19	市長	<p>発達障害のある児童について、臨床心理士と保育所、関係機関が連携し、助言指導や相談が出来る体制をつくる必要があるか。</p>	<p>発達障害の改善のためには、比較的早期から適切な療育を行うことが有効であると言われており、保育所では研修により職員の専門的知識や理解を深めるとともに、日ごろから児童の行動面に注意を払い、早期の発見・対応に努めている。また、必要と思われる児童については、小学校入学前児童に対する就学相談や、保健センターで実施している親子心理カウンセリング、児童相談所の療育相談などの臨床心理士が関わっている関係機関に紹介するなどし、専門的な対応につなげている。</p> <p>臨床心理士による相談や適切な判断の有用性については理解が出来るので、ご意見も参考にし、関係機関との連携強化など、仕組みづくりについて研究していく。</p>

小松	20	教育長	<p>自校方式と共同調理場方式の給食調理業務委託契約形態及びその根拠について伺いたい。</p>	<p>現在、19の小学校では自校調理方式で、それ以外の6つの小学校及び全ての中学校12校では、共同調理場方式で学校給食を実施している。平成14年度から、給食調理業務の委託を開始し、現在は、小学校19校中5校、共同調理場4場中3場で実施している。委託契約形態は、初年度に入札を行い、以後、業務の特殊性を考慮し、また安定的な業務の遂行を担保するため、随意契約により単年度契約を行ってきた。</p> <p>平成19年度より、児童・生徒数に変動が少なく、業務量の見通しをたてやすいことから、競争性を高め、スケールメリットによるコストダウンを図るため、小学校2校及び共同調理場1場で、指名競争入札の上、3年間の債務負担行為による複数年契約を導入した。今後は、複数年契約導入の経緯を見ながら、現在、単年度契約の施設の複数年契約への切り替えを検討してまいりたい。</p>
	21	教育長	<p>食材の調達方法はどのようになっているのか。また安全はどのように確保しているのか。</p>	<p>本市が学校給食で使用する食材は、神奈川県学校給食会が選定し登録されている物資と、小田原市学校給食会が毎年公募し業者選定委員会で選定した業者が取り扱う物資を調達している。</p> <p>毎回、大量に使う青果、食肉については国産のものを使用し、鮮魚については産地が明記されたものを使用している。また、生鮮食品以外の一般物資については、県や市が設置している学校給食会の物資選定委員会で原材料の配合割合や成分、細菌検査結果や添加物の有無等により安全性を確認している。今後も引き続き、安心安全な食材を調達して、児童・生徒に楽しい給食を提供してまいりたい。</p>
	22	教育長	<p>学校給食費の滞納状況と今後の対策について伺いたい。</p>	<p>学校給食費の各年度末の滞納額については、平成15年度約139万円、平成16年度約162万円、平成17年度約260万円で年々増えている状況であった。</p> <p>そこで平成18年度は滞納対策として、教育委員会・学校・学校給食会と連携をより一層強化して、電話での督促に加え督促通知書の送付やチラシの配布、教育委員会による学校訪問や、各学校ごとの「給食だより」で呼びかけるなどの対策を講じたところ、平成18年度の滞納額は約193万円となり、前年度より約67万円減少した。今後も滞納状況を随時把握するとともに、学校と連携協力しつつ滞納問題の解消に努めていきたい。</p>

	23	教育長	<p>地場産の食材はどの程度学校給食に使用されているか、その種類について伺いたい。</p>	<p>従来から、学校給食では、地元で取れた小松菜、葉ねぎ、みかんなどの農産物や、鰻、かます等の地魚やその加工品などを積極的に使用している。</p> <p>さらに、最近では、かながわ西湘農業共同組合及び市農政課、県水産課と協力し、米、玉ねぎ、休耕田等を利用して生産される里芋、完熟キウイフルーツ、給食用に開発した鰻ハンバーグ、干物等の活用を図っている。また、青果類納入組合にも呼びかけ、地場産の季節の野菜を優先的に使用している。平成18年度の地場産の主な食材の使用比率については、野菜や肉・魚などの生鮮食品93品目の中で、市内産は54品目で58%となっている。</p>
谷神	24	市長	<p>パークゴルフ場の新設について伺いたい</p>	<p>ご存知のとおり、限られた財源を有効に活用すべく、スポーツ施設も含めた各種施設の整備については優先順位をつけて対応している。</p> <p>パークゴルフ場をはじめスポーツ施設新設の要望があることは承知しているが、市域における施設配置のバランスや、既存施設の活用も含め研究しているところであるので、御理解いただきたい。なお、本市を含めた県西地域2市8町ではスポーツ施設の相互利用を進めており、地域内住民については同一料金で使用できる等、各市町が相互に施設を補完しあうことで住民の皆様には効率的なサービスを提供できるようにしているため、こうした制度を活用していただきたい。</p>

小田原文学館 3階の開放について

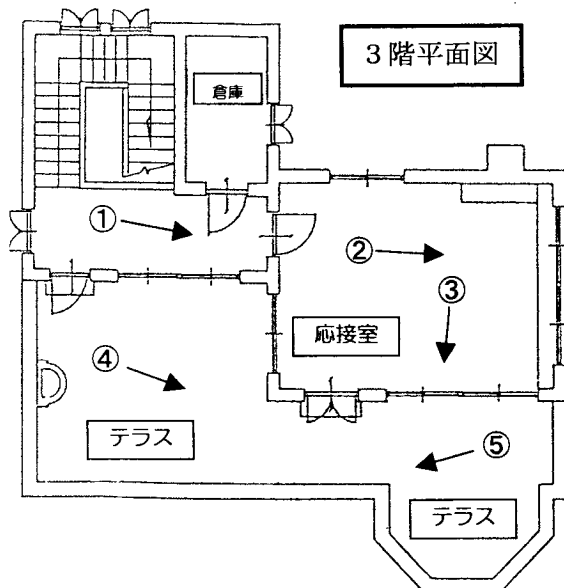
現在、作業スペース等として利用している小田原文学館本館 3階について、施設の有効利用及び来館者数の増加を図り、小田原文学館の魅力をより高めるため、3階部分を一般公開する。

実施日 平成19年10月26日(金)から

①



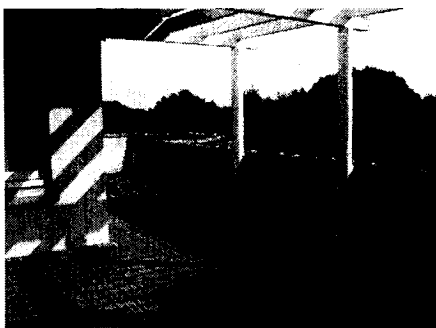
②



③



④



⑤

